

2020 年度 大学教育に関するアンケート

2021 年 3 月で初期臨床研修を修了する本学卒業生にアンケートを実施しました。
調査票を郵送し、web データ集積管理システム REDCap でご回答いただきました。

実施期間	2021 年 2 月 15 日～4 月 22 日
2019 年度就職者数	89 名
有効回答数	30 名 (回答率 33.7%)

1 大学の教育で役立ったこと

- ・医療の基礎を教えてくださいました
- ・アカデミックなことを学べる場所。
- ・基礎的な学力の定着と人間関係の形成
- ・数多くの教員の方から教えていただける
- ・優先順位をつけて勉強する力を養えたこと。
- ・基本的なことをきちんと教えてくれる場所
- ・各科の先生方が博識であったため、何を聞いても的確に返答頂けたこと。
- ・知識。一度聞いていたら出てきたときに思い出して理解しやすかったです。
- ・症候学 (M4) の講義が研修での外来/院内急変の対応に生きていると思われた。 →そのため 内容としてはもう少しカバー率を高めた方がいいと思われる。具体的には扱う「症候」を増やす (かつコマを増やす) または指定教科書で予習した上で discussion 形式のレクチャーにすることが望まれる。
- ・臓器別講義 (M4) のスライドやメモを電子媒体で保存していると、臨床疑問の解決時にすぐに参照できてよい。ただし多くは紙媒体で配布されるため自分でスキャンする必要が出てくる。 → 学生時代から再三提案しているが、基礎医学、臨床医学の座学でのスライドは事前配布などをして、電子媒体ベースにシフトした方がコストの上でもいいと思われる。それをしたがらない教員が多いが。
- ・ポリクリ (3)
- ・手術見学
- ・ルート練習
- ・症例発表の練習
- ・SCC での実技練習
- ・患者さんへの接し方。
- ・カルテの書き方、ルートの取り方
- ・いろんな科をローテーションで回った経験
- ・他科とのコミュニケーションやプレゼン能力
- ・CV 実習は実技試験もあり、実際の臨床でも役立ちました。
- ・それぞれの座学・臨床実習 プレゼンやコンサルトのマナー
- ・臨床実習を通じて基礎を学ぶことができ、臨床研修に活かされた。
- ・初診の問診の練習、プレゼンの機会が多かったことは役立ちました。

- ・臨床実習（大学病院/市中関連病院）はプレゼンテーションやカルテの作り方、学習の仕方などの non-technical skills の養成に役立ったように思われる。
- ・患者に対する心意気
- ・メール等での連絡の文面について。
- ・医師として以前に人としての礼儀を学んだ。

2 大学の教育であったほうが良いと思うこと

- ・医学英語（3）
- ・文献検索や文献の批判的吟味の方法などの学習機会（2）
- ・教養科目（M1）について、特に人文系で顕著なのはかなり思想の偏った人間の明らかに学問でないような講義コマがある点。行うのであれば経済学部や文学部のような専門学部の学生が導入で行うレベルの難易度、内容を扱い学習する方が「教養」といった意味では適合している。
- ・基礎医学（M2）について、まず最低限理解すべき総論的内容の全体像を把握させ、臨床医学にどのように生かせるかといった観点でのレクチャーが望ましいように感じた（例えば frank-starling 曲線は心不全に病態や治療薬選択に役立つ、など） 学生の時は教員も、枝葉末節にこだわり自分たちの自己中心的な研究のひけらかしにも思えるようなレクチャーが多く、基礎の教員のレクチャーを受けるよりは臨床医が臨床志向の基礎の講義を行う、あるいは場合によっては国試予備校に根幹部分を外部委託し全体像を把握した上で細かい部分やトレンド、トピックスについて基礎教員が補足する形でもいいのではないかと感じた。
- ・臨床推論
- ・臨床の実践的な知識の勉強
- ・もっと実践に沿った教育を早くから取り入れた方が良く思う。
- ・国家試験対策の授業。
- ・模試を強制的に受験させられたが必要ななかったと考える。
- ・採血実習（2）
- ・手技実習（2）
- ・手技を実際にする機会、救急診察する機会が少ない
- ・画像読影の練習の機会がもっとあれば良かったと思います。
- ・心電図や CT の基礎的読影 エコーをあてる 紹介状なしの初診外来
- ・カルテの書き方をもっと詳しくおしえていただけたらより良かったです
- ・ポリクリでは担当患者が少ないはずなので、責任を持った何かの仕事をするべきだと思う
- ・エコーは体系的に学ぶ機会があってもよいのではないかと思います。休み時間に気軽にあてることができる環境もあればなお良いと思います。
- ・実習で臨床の現場で経験する時間が少ない。特に市中病院と大学病院は大きく違うところがたくさんあるので、市中病院で行う実習を必須とした方が良く思う。
- ・コンサルトのコツみたいなものを補足情報として。授業中に各科でこの部分があったら分かりやすい、などを該当箇所がでたら一言添えてもらえたら嬉しいと思いました。（学生の時に理解できるかと問われたら自信はありませんが。）

- ・研究に触れる機会
- ・医師として働く意識教育
- ・個人 PC の配給
- ・あまりにも大量の内容を大量に暗記し、過去問を覚える、または教授の自己満足で留年者を増やそうとするような試験作成はナンセンスだと感じる。 そういった点では進級・卒業試験も、全国の標準（いわゆる CBT/OSCE または国家試験）のレベルを逸脱しないものであるべき
- ・十分です！

3 大学生の時にしておけばよかったと思うこと

- ・論文を読む練習（3）
- ・英語の勉強、英語で文献を読む能力をつける（3）
- ・勉強（2）
- ・統計の勉強
- ・臨床推論や EBM
- ・外科手術で術式を予習する
- ・基礎医学の勉強をしっかりとすべきだった。
- ・回診

- ・医学以外の勉強、社会勉強（3）
- ・長期旅行・海外旅行（2）